



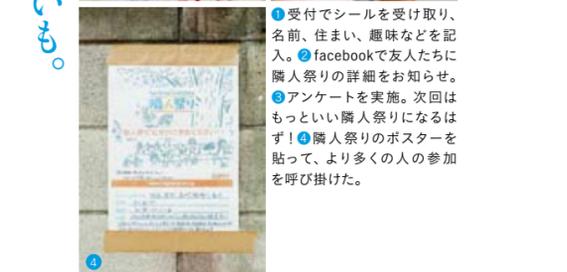
1 『わらしべ長者』の絵本。2 欲しいものを探す楽しい時間。3 折り紙の飾りと、アクリルたわしを交換。4 知らない人とも話はずむ。5 クワガタの幼虫に小さな子どもは興味津々。6 食べものを差し入れてくれる人も。

la fête des voisins
隣人祭り

ボランティアをしませんか。

「隣人祭り」日本支部では、活動をサポートしてくれるボランティアスタッフを募集します。隣人祭りを日本中にもっと広めるため、広報活動をさらに強化。ホームページやメール、お知らせなどのテキストを書く仕事や、イベント開催時のお手伝いなどがあります。週に1回程度、ミーティングを予定。社会貢献したい、経験を積みたい学生や若者を求む！

コンシェルジュ募集中!
「隣人祭り」日本支部
〒104-0045
東京都中央区築地7-12-7築地FTSビル5階
一般社団法人人口ハスクラブ内
fax.03-3549-1013 mail@rinjinmatsuri.jp
www.rinjinmatsuri.jp



不用品をきっかけに、思いがけない出会いも。

理解を得ることが必要だと感じていると、河合秀之さんが以前にテレビ番組で見た「隣人祭り」のことを思い出し、提案した。肩肘張らず、気軽に参加できる隣人祭りなら、これ

まで地域のイベントに顔を出すのが億劫だった人も参加しやすいのではと、開催が決まった。子育てや介護の支援などの活動でそれぞれ忙しい日々を送っているため、事前の準備

や申し込みが不要で、誰もが楽しく参加できる方法を考えた。瑠璃川さんが自宅前に不用品を置くとその日のうちになくなることをヒントに、会話しながら不用品を交換する「わらしべ長者」をテーマにした隣人祭りを思いついたのだった。

が得意な女性が現れ、物々交換が成立した。「洗剤を使うと手が荒れて困っていたんですよ」「この作品、きれいですね」と見知らぬ者同士が自然に会話を繰り返して、楽しそうにしていた。お金や時間をかけなくても、アイデア次第でこんなにも楽しい隣人祭りができる。そんなお手本のような隣人祭りだった。

1 受付でシールを受け取り、名前、住まい、趣味などを記入。2 facebookで友人たちに隣人祭りの詳細をお知らせ。3 アンケートを実施。次回はもっといい隣人祭りになるはず! 4 隣人祭りのポスターを貼って、より多くの人の参加を呼び掛けた。

働けど働けど貧乏だった男が、観音様のお告げでわらしべ長者から物々交換を始め、最後には大金持ちになるという昔話「わらしべ長者」。この昔話をテーマにした隣人祭りが、今年4月に東京都杉並区で行われた。会場となったアパートの駐車場には、ご近所さん、コンシェルジュの知人など約60人が家にある不用品を持って集まってきた。

入口でシールに名前、住んでいるところ、趣味を書き込んで服に貼り、バスケットに品物を入れてスタート。食器や衣類のほか、クワガタの幼虫や金箔入りのおせんべいなどユニークなものも並んだ。欲しいものがあつたら持ち主に話しかけ、自分の持ち物の中に相手が欲しいものがあれば、物々交換が成立する。「どこの織物ですか」「どんな使い方をするんですか」と知らない者同士でも話しかけやすい。

5人のコンシェルジュの一人・瑠璃川正子さんには、自立した個人と一緒に暮らし、地域の人たちが出入りする家を作る夢がある。10年前から温めてきたこの構想に賛同する人々が集まるようになり、話し合いを重ねてきた。実現に向けて地域の

隣人祭り
は
良いことずくめ

**わらしべ長者に挑戦!
物々交換で地域デビューしよう。**

第29回 コンシェルジュ 瑠璃川正子さん、河合秀之さん、
島村八重子さん、澤岡詩野さん、亀井弥生さん

初対面の人と、よく知らない人と何を話したらいいの?
隣人祭りに参加する時、チラッとこんな不安がよぎるかも。
でも“不用品”をきっかけに、話が弾むこともあるのです!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Mari Kubota



子どもからお年寄りまで不用品を持参し、わらしべ長者を目指した。フリーマーケットと違い、ゲームを楽しむような感覚。